

夢と希望を抱いて1ターンしてきた人、故郷・長崎でがんばろうとUターンしてきた人。それぞれの舞台上で輝く人々をご紹介します。

移住歴13年

越首伸之介さん



瀬渡し 翔龍丸 船長

強い絆で結ばれた仲良し家族。船名の翔龍丸は長男の翔龍くんから名付けた。

瀬渡し 翔龍丸
五島市玉之浦町玉之浦616
TEL.080-5217-5769

瀬渡し 翔龍丸 検索



大瀬崎周辺はとにかく釣れます。僕が絶好のポイントに案内しますよ!

「実は、小さい頃からプロゴルファーになりました。目覚めた顔はくしゃつとさせて話す越首伸之介さん。小学四年生の頃からプロゴルファーを目指していた越首さんは、夢を叶えるべく、高校進学をきっかけに島を出た。しかしプロへの道は想像以上に険しかった。夢を諦め、故郷である玉之浦町へ戻ってきたのは二十四歳の時。それから十一年間、ガソリンスタンドで働いた。

のだった。越首さんは幼い頃からその方の船で、絶好の釣りスポットである大瀬崎へ連れていってもらっていたという。「その人は、玉之浦町で最後の瀬渡しでした。玉之浦町には大瀬崎を目指して全国からたくさん釣りが訪れていました。瀬渡しがいなくなれば、その釣り客も来なくなりま。まから活気がなくなってしまうと心配し、自分がしなくては...と考え始めたんです」。悩んでいた越首さんの背中を押したのは、妻・華菜さんの「やりがいのある仕事をしてほしい」という言葉だった。そうして今年の春、越首さんは瀬渡しとして生きていく覚悟を決めた。

なにせ命を預かる仕事ですから、一瞬も気を抜けません。最初の一カ月は、お客さんを無事に乗せて無事に帰ってくる、それだけで精一杯でした」。越首さんはほぼ一日中、五社の天気予報をチェックし、風を見て自分なりに分析をし、どこが釣れるか、どこへ案内したらよいか、ルートを組み立てるといいます。

三児の父でもある越首さんは「結婚してから、より玉之浦を離れたくなかった」と話す。生まれたまちで子どもたちと過ごす時間は、かけがえないものものだろう。玉之浦町では毎年秋に神楽が奉納されるそうで、越首さんは小学一年生の頃から舞台に立っているという。そこには「このまちが好きだから力になりたい」という想いがあふれていた。

最後に全国の釣りファンにメッセージをもらった。「大瀬崎では初心者でも大物が釣れます。大きい魚を釣りたい方はぜひ、玉之浦へお越しください。僕が釣らせてみせますよ」。



こんなに大きいのが釣れたよ! すごいでしょ!?



長崎県移住支援公式HP
ながさき移住ナビ
おかしり長崎 ようこそ長崎

ながさき移住 検索